資料4

誰も孤立しない地域を目指して
～足立区孤立ゼロプロジェクト～

令和４年１０月７日（金）

足立区地域のちから推進部
絆づくり担当課長　會田　康之

Go For 90th→100th

■■■　内　　容　■■■

１　孤立ゼロプロジェクトが始まった背景

２　孤立ゼロプロジェクトの事業概要

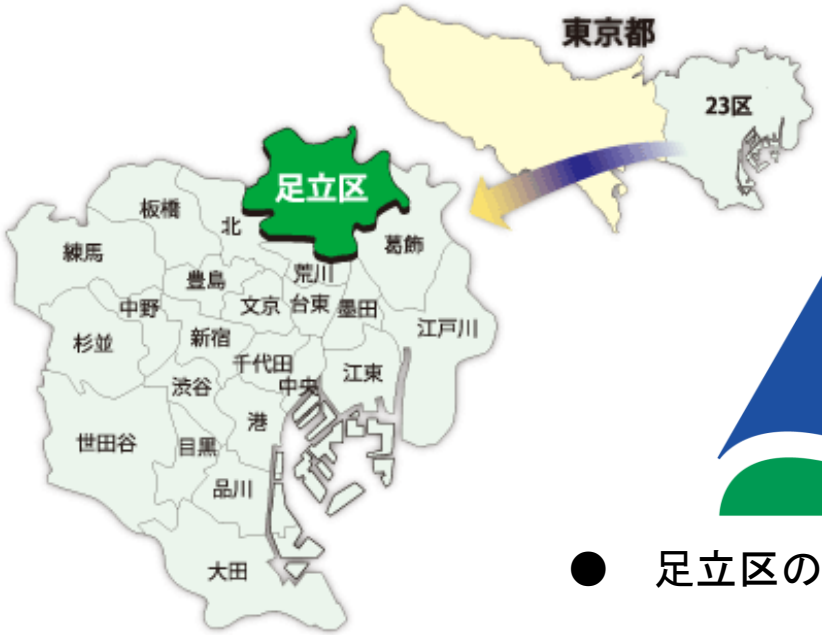
３　孤立ゼロプロジェクトの実施状況

４　今後の取り組み

【情報提供】足立区の高齢者孤立死の状況

はじめに

（１）足立区の位置



- 足立区のシンボルマーク
- 区の木　桜
- 区の花　チューリップ

（２）概要

- 面積　　５３．２５km²
- 人口　　６８８，４４１人
  （うち外国人）３２，９９４人
- 世帯数　　３５９，６５８世帯
- 区立公園の面積は
  ２３区中第１位を誇る
- 四方を河川に囲まれた
  平坦な土地柄
- 鉄道は８路線
- 大学は６校
- 令和４年度（区制９０周年）
  一般会計予算　３，１５４億円

（３）高齢化率

- **足立区：２４．７%…２３区中１番高い！　（２３区平均：２１．５%）**

高齢化率＝総人口に占める６５歳以上の人口の割合

※　令和４年９月現在

１　孤立ゼロプロジェクトが始まった背景

（１）社会的孤立が増加！？

血縁関係の希薄化、地縁の衰退、社縁の崩壊などで人と人とのつながりが薄れた。

⇒孤立が産み出す現代社会の課題

・孤独死　・うつ、神経症、認知症等の心の病　・自殺　・非行や犯罪
・虐待やセルフネグレクト　・引きこもり　・ごみ屋敷　など

（２）きっかけとなった事件

平成２２年７月、当時東京都内男性最高齢者であり、生存していれば１１１歳の足立区民が、実は３０年前に死亡していた。高齢者の安否を確認していた地域の民生・児童委員がこの間ずっと男性に会うことができず、区に相談したことがきっかけとなり発見に至った。このことを発端に、全国の自治体で高齢者の行方不明者が相次いで判明。

そこで、地域コミュニティが衰退し、つながりが希薄化しているという問題意識から、地域における人と人とのつながりを強めようと「地域のちから推進部」を平成２３年度に創設。

翌年の平成２４年に専管組織「絆づくり担当課」ができ、平成２５年に「足立区孤立ゼロプロジェクト推進に関する条例」を施行。

１　孤立ゼロプロジェクトが始まった背景

（３）足立区孤立ゼロプロジェクト推進に関する条例

ア　目的

本条例は、区民が社会的孤立状態に陥ることを防止するため、地域での見守り活動を促進し、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指すこと。

イ　特徴

- 「孤立」を世帯以外の人と会話する頻度、困りごとの相談相手の有無で判断

  （日常生活において、世帯以外の人と１０分程度の会話をする頻度が１週間に１回未満、または日常の困りごとの相談相手がいない）

- 「調査対象者の名簿」を守秘義務を前提に町会・自治会や民生・児童委員に提供し、地縁団体である町会・自治会も調査ができる制度設計

  ☞地縁団体と「協働・協創」による地域づくり

２　孤立ゼロプロジェクトの事業概要

近年、社会的孤立によるうつ・ごみ屋敷・孤独死などが社会的問題となっています。こうした状況を打破するため、①気づく②つなげる③寄り添う の３つの柱の「絆のあんしんネットワーク」を築き、④居場所づくりや社会参加へつなげる「お互いさま」のまちづくりを推進。

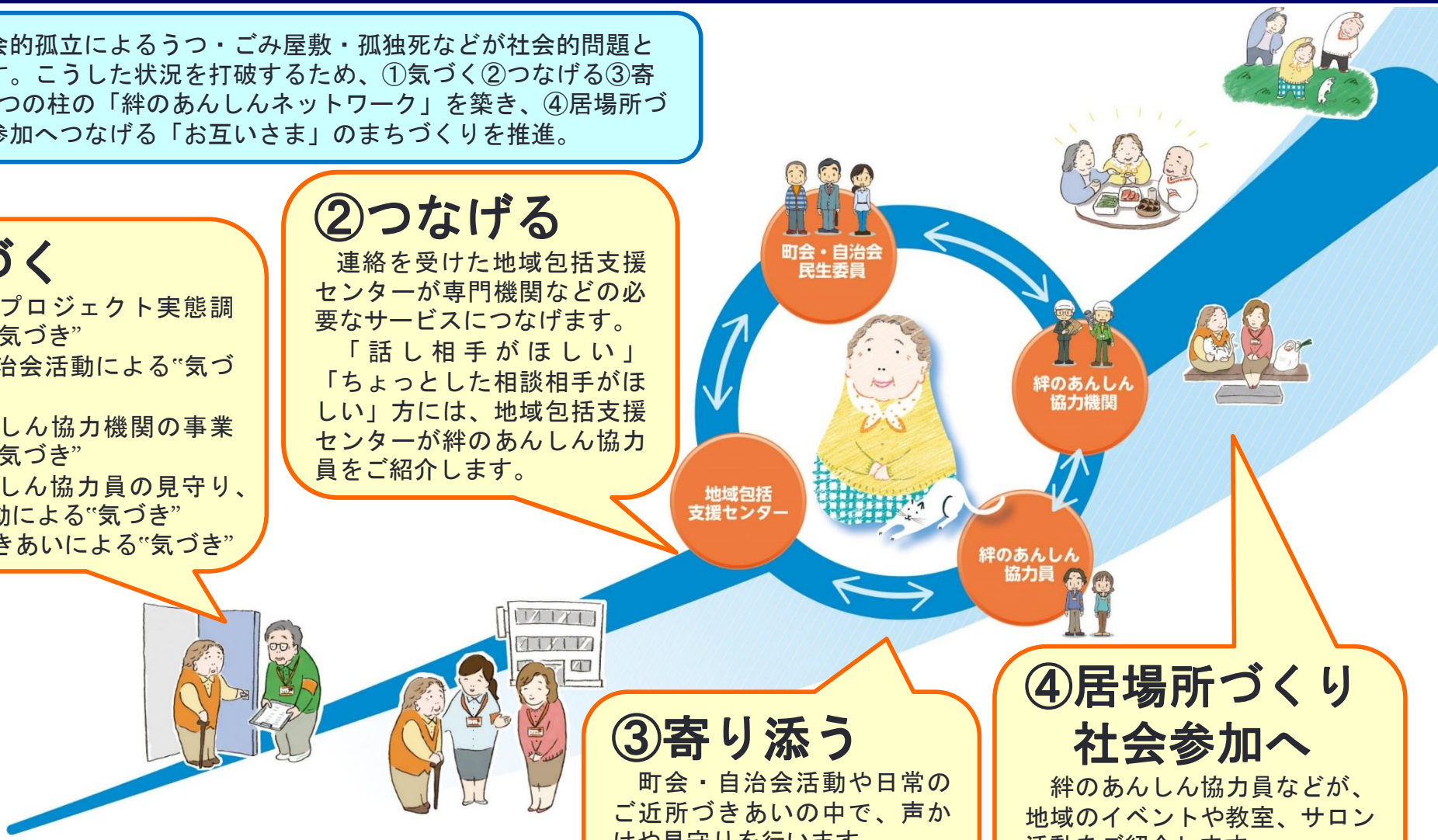
①気づく

- 孤立ゼロプロジェクト実態調査による“気づき”
- 町会・自治会活動による“気づき”
- 絆のあんしん協力機関の事業活動時の“気づき”
- 絆のあんしん協力員の見守り、声かけ活動による“気づき”
- ご近所づきあいによる“気づき”

②つなげる

連絡を受けた地域包括支援センターが専門機関などの必要なサービスにつなげます。

「話し相手がほしい」「ちょっとした相談相手がほしい」方には、地域包括支援センターが絆のあんしん協力員をご紹介します。



③寄り添う

町会・自治会活動や日常のご近所づきあいの中で、声かけや見守りを行います。

また、絆のあんしん協力員も話し相手になるほか、見守りや声かけなどを行います。

④居場所づくり 社会参加へ

絆のあんしん協力員などが、地域のイベントや教室、サロン活動をご紹介します。

自ら進んで地域に加わり、生きがいを持って日々を送っていただくことを目指しています。

２　孤立ゼロプロジェクトの事業概要

①　気づく・・・孤立ゼロプロジェクト高齢者実態調査

◆　前　　提　　・　介護保険サービスを利用していない方
◆　対　　象　　・　７０歳以上の単身高齢者
　　・　７５歳以上の高齢者のみ世帯
◆　調査委託先　　・　町会・自治会、民生・児童委員

【令和4年3月末現在】

実態調査	状　況
町会･自治会による調査　1回目	全町会･自治会440団体にて 平成30年3月末終了
町会･自治会による調査　2回目以降	367団体／全438団体（83.8%）終了
調査世帯合計（累計）	48,920世帯　（60,078人）

２　孤立ゼロプロジェクトの事業概要

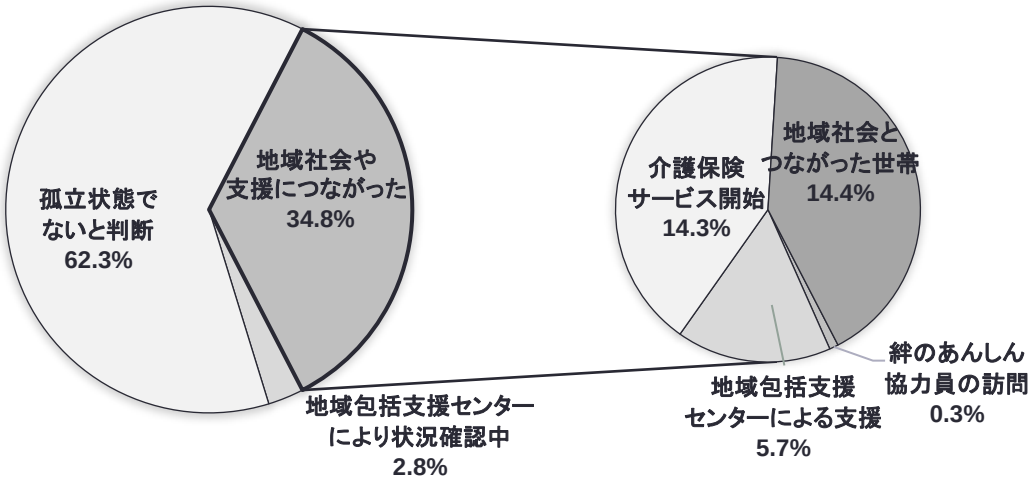
②　つなげる・・・地域包括支援センター（区内２５か所）

◆　町会・自治会で調査をした結果、訪問時に不在や孤立のおそれの心配のある方について、地域包括支援センターが個別に訪問します。
これまで、１３，３０４世帯を対象に訪問していただきました。

◆　支援が必要な方について、介護保険サービスや地域社会の活動、または絆のあんしん協力員による見守り等につなげます。

【令和4年3月末現在】

地域包括支援センターが訪問した結果	累計
孤立状況でないと判断	8,295世帯
地域社会や支援につながった世帯	4,630世帯



２　孤立ゼロプロジェクトの事業概要

③　寄り添う　　＆　　④　居場所づくり社会参加へ

◆　絆のあんしん協力員（１，０２４人登録）

困りごとの相談相手がいない方や地域で気になる方に対し、ちょっとした見守りや声かけをしていただく区内在住・在勤の方によるボランティアです。

◆　絆のあんしん協力機関（８７５団体）

町会・自治会や老人クラブ、新聞配達店、配食サービス事業所、郵便局、薬局、銭湯、信用金庫、商店、コンビニ、スーパー、医療機関など区に登録いただいている団体です。通常の業務の中で高齢者に気を配り、気になる方に関して、地域包括支援センターへ連絡していただいています。

◆　わがまちの孤立ゼロプロジェクト（９６団体）

町会・自治会等の活動の中で、日ごろからの挨拶や声かけをすることによって、ひとり暮らし、日中独居等の高齢者の不安を軽減し孤立を防ぎます。日常的な見守り・交流を行う町会・自治会等に区が「絆づくり応援グッズ」を提供し、活動を後押しします。

【登録者･登録団体数は令和4年3月末現在】

３　孤立ゼロプロジェクトの実施状況
（コロナ禍での見守り活動報告）

　新型コロナウイルスにより、見守り活動に様々な影響が出ています。
　そのような状況の中、「これからのつながり」を工夫し、実行した結果を報告します。

新型コロナウイルスによる見守り活動への影響

感染症による影響

（１）孤立のおそれがある方を発見する機会の減少

→　令和２年度は、町会・自治会による孤立ゼロプロジェクト実態調査ができず。孤立のおそれに「気づく」機会が減少した。

（２）直接的交流機会の減少による見守り活動への意識低下

→　声かけや訪問、サロンなどの居場所の提供が長期間にわたってできないことは、見守りに対する意識の低下につながる。

（３）地域での情報共有機会の減少

→　地域での情報共有は顔の見える関係づくりの継続につながるが、制限の長期化により情報共有の機会が減少している。

コロナ禍での地域活動の事例

■町会・自治会による孤立ゼロプロジェクト実態調査の再開（P12、13）

■大学生による訪問活動（P14、15）
■名前と場所を変えて再始動！島根の新たな居場所（P16、17）
■野外活動
花壇づくり（P18）

■喫茶店を地域の情報共有の場に
井戸端かいご（P19、20）

影響（１）への取り組み　孤立のおそれがある方への「気づき」

ア　町会・自治会による孤立ゼロプロジェクト実態調査の再開

令和２年度は、新型コロナウイルスの影響により、町会・自治会による「孤立ゼロプロジェクト実態調査」が全くできないという事態に。

孤立のおそれがある方に「気づく」機会が激減していましたが、令和３年度は、マスクやアルコールジェルといった調査物品を新たに準備し、**感染症対策をしっかりと行ったうえで、**いくつかの町会・自治会に調査にご協力いただくことができました。

調査で明らかになった「気がかりな方」については、地域包括支援センターに支援をお願いしています。

孤立ゼロプロジェクト 令和３年度実態調査進捗状況

町会・自治会調査状況 （令和４年３月末現在）

団体数：**１１団体** （５０音順）

伊興二丁目自治会、イニシア千住曙町自治会、扇三丁目第二団地自治会
弘道二丁目中央自治会、皿沼町会、島根四丁目第三自治会、千住五丁目町会、竹の塚ビューハイツ自治会、都営西保木間二丁目団地自治会、都営保木間町アパート自治会、日本住宅公団江北六丁目団地自治会

	70歳以上 単身世帯	75歳以上 のみ世帯	令和3年度 調査実施世帯合計
合計	250世帯	94世帯	344世帯

コロナ禍でも**344**世帯の実態調査を行いました

影響（２）への取り組み　大学生による高齢者宅への訪問活動

ア　大学生による見守り活動　～千住便利隊～

【活動のきっかけ】

帝京科学大学医療科学部医療福祉学科（絆のあんしん協力機関）の２年生による必修授業として、平成３０年度より活動開始。コロナウイルス感染症拡大により令和２年度の訪問活動は休止し、ＷＥＢを活用した交流を実施。令和３年度より活動を再開しています。

毎週金曜日１５時から、２人組で担当の高齢者宅を訪問し、高齢者の様々な要望に応えています。

高齢者にとっては手の届かないところを手伝ってもらえ、学生は高齢者と直接ふれあう貴重な機会となっています。

影響（２）への取り組み　大学生による高齢者宅への訪問活動

【千住便利隊・活動内容】

- 主な活動内容は、掃除、買い物、話し相手など。他にも、散歩の付き添い、草むしり、調理、将棋の対局相手、映画鑑賞の付き添いなども。

  ※活動内容は原則身体介護以外で、本人やケアマネジャーなどと相談して決定しています。

- 日常生活では交わることの少ない、**学生と高齢者の多世代交流**。今後の活動にも期待が高まっています。

【学生と高齢者のコメント】

学　生「普段の授業では体験できないこと。高齢者の役に立てていることが嬉しい」

高齢者「自分では難しい作業を手伝ってくれて助かっている。学生と交流が出来て楽しい」

影響（２）への取り組み　集会室を利用した地域の居場所づくり

イ　名前と場所を変えて再始動！　島根の新たな居場所
～島根四丁目第三自治会の「サロン♡シマフォー」～

【活動のきっかけ】

もともと高齢者施設を利用し、開催していたサロンがコロナで活動を中断。

「集会室」というみんなが集まりやすい場所があるのに活用しない手はない！と、自治会長を始めとした運営スタッフでサロン再開を決意。

新たな名称には、誰もが気軽に参加できるように“こころ”を込めて「♡」を。

区内の他の地域にもこういった活動を広めたい！というのが運営スタッフ全員の想いです。

影響（２）への取り組み　集会室を利用した地域の居場所づくり

【サロン♡シマフォー　活動内容】

- 令和３年１０月２６日、島根四丁目第三自治会集会室にて「サロン♡シマフォー オープニングイベント」を開催。絆のあんしん協力員を含む３０名以上の方が足を運び、大盛況！１１月から本格稼働！！

- 日時：毎月第四火曜日の午後２時～３時
  ※祝日、年末等は日程変更あり
- 場所：島根四丁目第三自治会　集会室
- 内容：体操・おしゃべり・折り紙・歌・講座など

【島根四丁目第三自治会　小関会長のコメント】
地域の人がすぐに足を運べる集会室といういい場所があるのに、活用しないのはもったいない！という思いがずっとありました。念願だったサロンのオープンが無事にできてよかったです。

影響（２）への取り組み　屋外での居場所づくり

ウ　花壇づくり活動

足立区を花でいっぱい＆キレイに　**＜ビューティフル・ウィンドウズ運動＞**

- 三密を避け、屋外で仲間と活動できる花壇づくり活動の輪が広がっています。
- 「公園を花でいっぱいに、まちをキレイに」を目的に活動する**「花・プロジェクト千住」**が令和２年９月に千住でスタート。地域包括支援センター千住西・千住本町の絆のあんしんネットワーク連絡会でメンバーを募り**「千住なでしこ」**を結成。大正記念道碑のある千住中居町公園で活動中です。
- 公園の清掃協定締結、花いっぱいコンクールへの参加、まちづくりトラストの申請など、**区の複数の課と連携**し、活動の幅を広げています。

【千住なでしこの活動】

千住なでしこ
こんな活動をしています

「大正記念道碑」のある
千住中居町公園

球根植え
（令和2年11月末）

発芽しました
（令和3年2月9日）

満開のチューリップ
（令和3年4月1日）

四季を感じられる公園になりました
（令和３年７月）

影響（３）への取り組み　地域での情報共有

ア　喫茶店を、地域の憩いの場に
～「珈琲　はんなり」での「井戸端かいご」～

【活動のきっかけ】

喫茶店「珈琲　はんなり」のオーナーで、絆のあんしん協力員でもある中田さんが、常連客から**「地域の共生や介護の課題解決のための場づくりを運営したい」**と相談されたことがきっかけで、「井戸端かいご」がスタート。

中田さん自身、**家族に認知症の疑いがあり、包括に相談した経験**があったので、訪れた方に介護についてのアドバイスをすることも。

オーナーの中田さん

影響（３）への取り組み　地域での情報共有

【井戸端かいご・活動内容】

- 毎月第３金曜日の午前中、**喫茶店を貸し切り状態にして**「井戸端かいご」を開催。包括職員や薬剤師など、月毎にゲストを招いて講義を行い、参加者同士で介護に関する悩みを共有する場になっています。
- 元々は常連客で、協力員の野島さんが講師の手配等の運営責任者として活躍。**お互いに関心を持てる地域を目指している**とのことです。

【中田さんのコメント】

自分も成長しながら、色々な方がほっとできるような居場所づくりをしていきたいと考えています。

４　今後の取り組み

　どんなときも地域の絆を大切に、「お互いさまのまちづくり」を推進。
　区民・団体・行政が一丸となり、様々な困難を乗り越えようとしています。
　「孤立ゼロのまち」をＰＲするため、さらに新たな一歩を踏み出していきます。

４　今後の取り組み

（１）高齢者への見守りの目の拡大

→　他課で実施しているボランティア活動と連携し、地域の見守りの目を増やす。

（２）孤立ゼロプロジェクトの成果を対外的にＰＲ

→　地域の好事例を収集し、情報発信することで、区民の見守りへの意識を高める。

（３）連絡会等を基盤に地域の関係者との連携を強化

→　活動者同士が話し合い、見守りの方法等を共有し、モチベーションを維持する機会を構築する。

（１）高齢者への見守りの目の拡大
他課との連携事例　～まちづくり課「ながら見守り」との連携～

【地域包括支援センター伊興　絆のあんしんネットワーク連絡会での取り組み】

令和３年１０月、「私たちの町づくり」というテーマで連絡会を開催し、「ながら見守り」活動を通して安全安心な町となるよう、個々で出来る取り組みを考えました。

まちづくり課、竹の塚警察署、「ながら見守り」に登録されている近隣のＰＴＡの方々が加わり、見守り活動中の１１０番通報事例を寸劇で実践。今までつながりがなかった機関同士で交流することができました。

ながら見守りとは？

不審な人物や車両がないかなどを日常活動をし「ながら」まわりに目を向けることで、子どもや地域の安全を守ろうとする活動です。一人からでも参加できます。

【地域包括支援センター伊興　センター長のコメント】
これまではPTAのような学校関係者と関わる機会がなかったので、地域の連携を更に広げる良いきっかけとなりました。

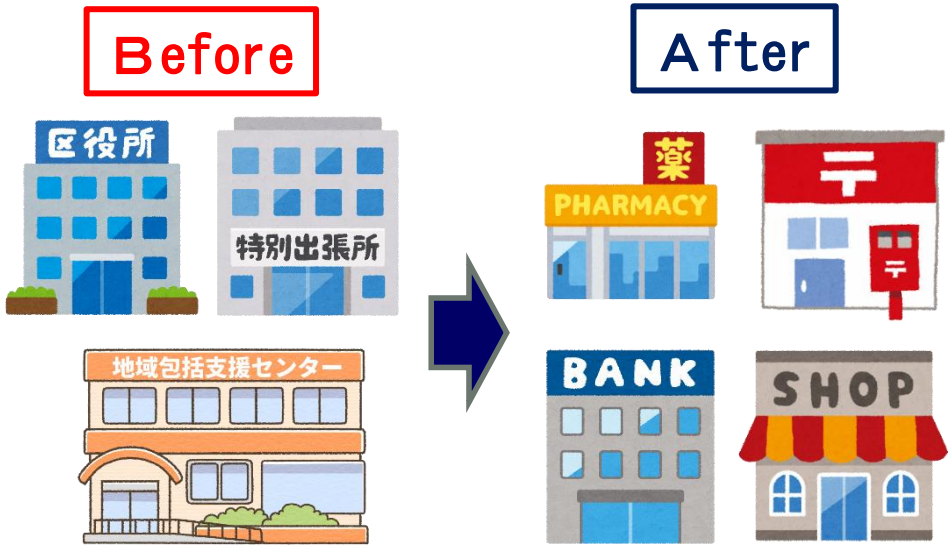
（２）孤立ゼロプロジェクトの成果を対外的にＰＲ
～あだち絆づくり通信の作成と配布～

「あだち絆づくり通信」の作成

各地域包括支援センターを通じて地域の見守りの好事例を収集。絆づくり担当課の職員が取材や撮影を行います。

区のシティプロモーション課と連携し、レイアウト等のアドバイスをいただき、紙面を刷新しました。

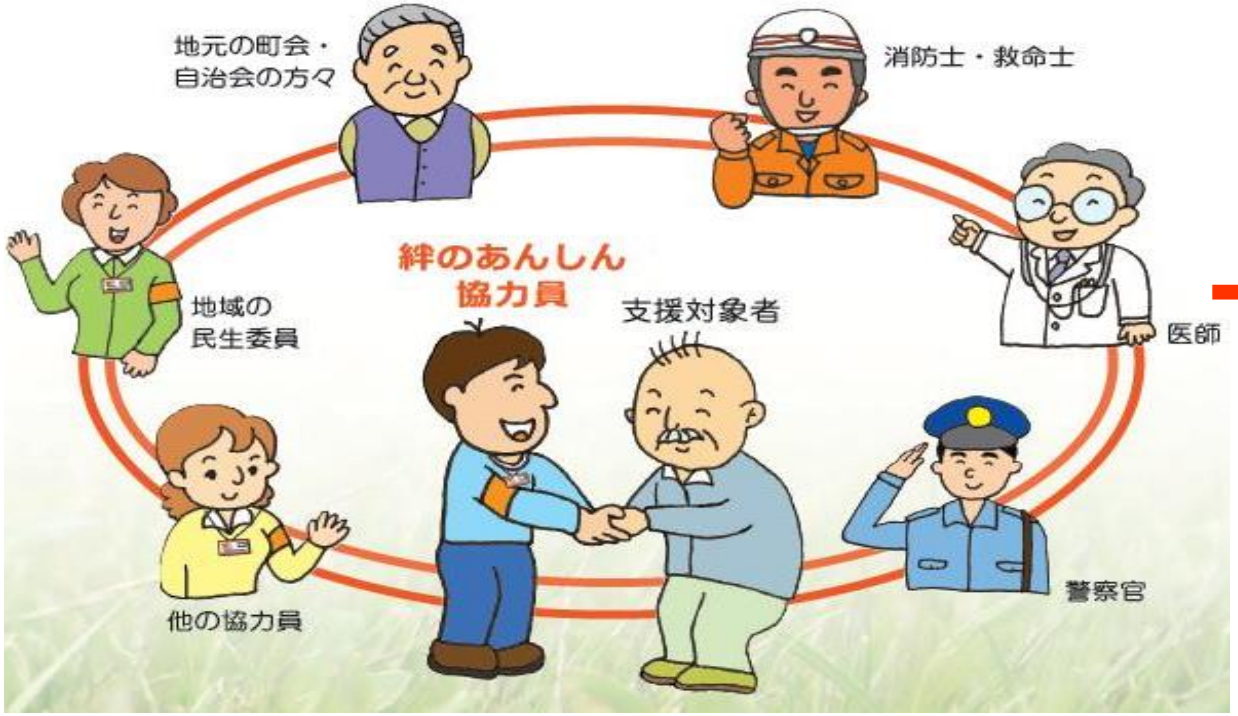
区内の各施設や協力機関に配布



これまでは区民事務所等を中心に配布していましたが、銀行や薬局等にも範囲を拡大しています。

（３）連絡会等を基盤に地域の関係者との連携を強化
～絆のあんしんネットワーク連絡会への多様な主体の参加～

感染症対策を実施した上で、「絆のあんしんネットワーク連絡会」を各地域包括支援センターで開催しています。絆のあんしん協力員・協力機関に加え、新たにＰＴＡや区の他部署など様々な主体の参加を促し、地域の見守りについて情報共有や議論を強化していきます。



＋

様々な団体との連携を
強化していきます

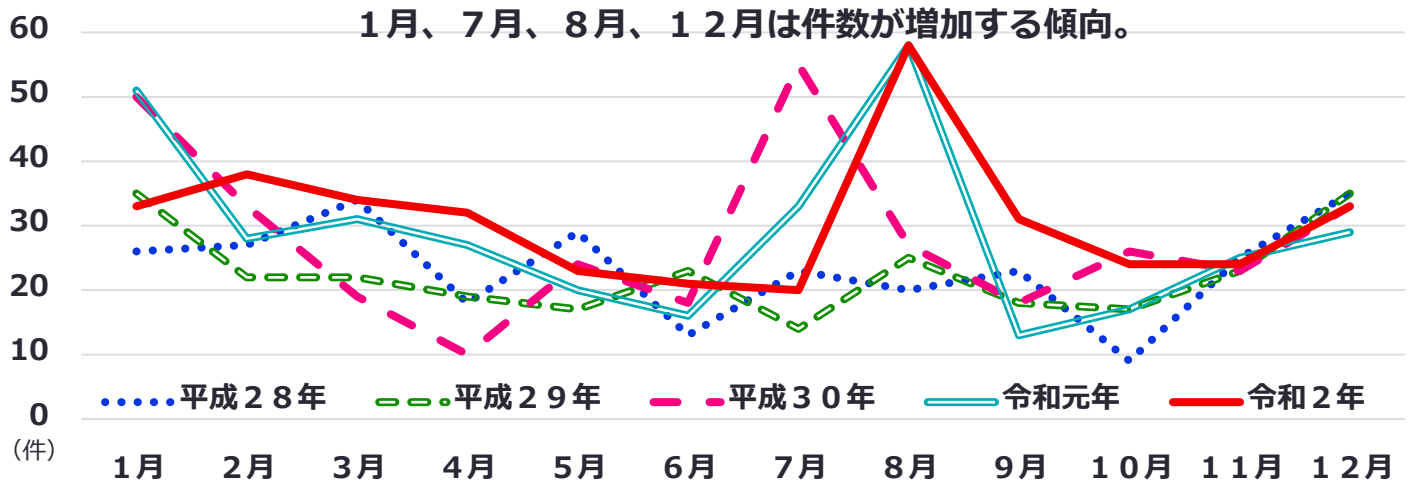
【情報提供】　足立区の高齢者孤立死の状況

当分析では、「単身者の自宅での死亡」を「孤立死」と定義します。

データ出典：東京都監察医務院提供データ（平成28年～令和2年）

（1）ーア　月別高齢者孤立死件数

年月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	高齢者人口（1月1日現在）	高齢者増加率（対前年）	高齢者孤立死増加率（対前年）
平成28年	26	27	34	18	29	13	23	20	23	9	25	35	282	165,910人	+1.9%	
平成29年	35	22	22	19	17	23	14	25	18	17	23	35	270	168,323人	+1.5%	-3.6%
平成30年	50	33	19	10	24	18	55	27	18	26	23	33	336	169,994人	+1.0%	+24.4%
令和元年	51	28	31	27	20	16	33	58	13	17	25	29	348	170,890人	+0.5%	+3.6%
令和2年	33	38	34	32	23	21	20	58	31	24	24	33	371	171,378人	+0.3%	+6.6%
合計	195	148	140	106	113	91	145	188	103	93	120	165	1607			

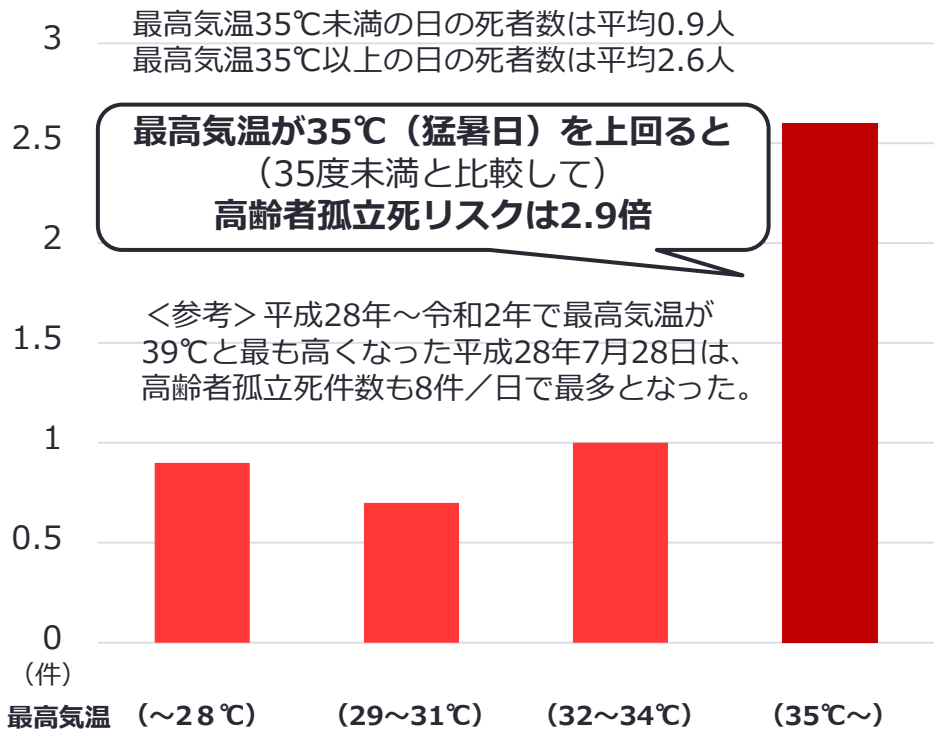


足立区における高齢者孤立死件数の増加率は、高齢者人口の増加率を大きく上回る。

（1）ーイ　夏季（7月・8月）、冬季（1月・12月）の高齢者孤立死件数

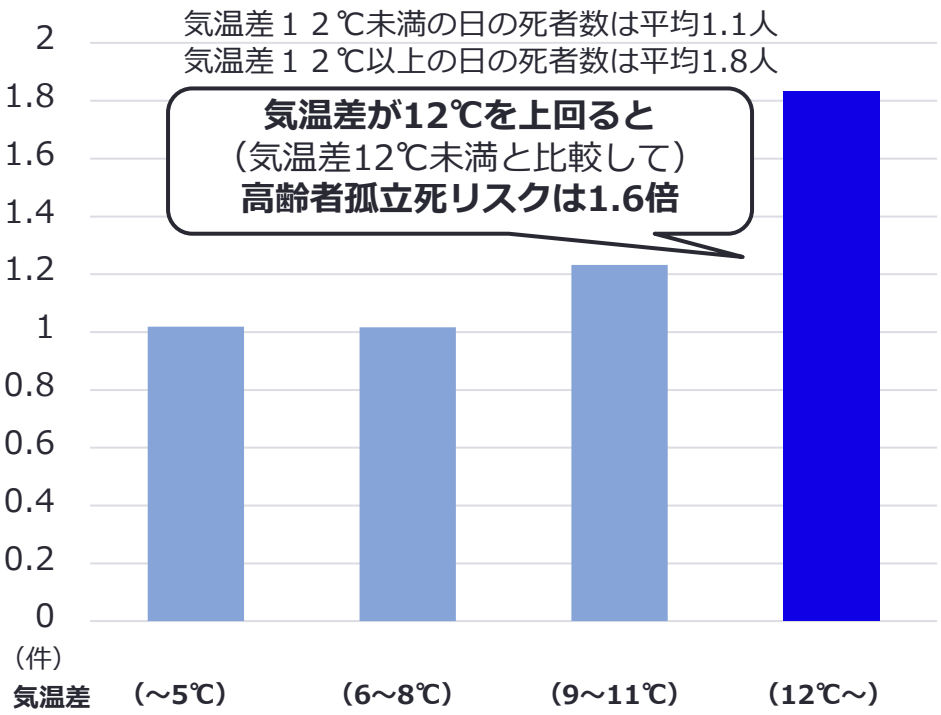
夏季（７月・８月）最高気温別

夏季の高齢者孤立死件数は、**最高気温と関連性**が見られる。



冬季（１月・１２月）気温差別（最高気温-最低気温）

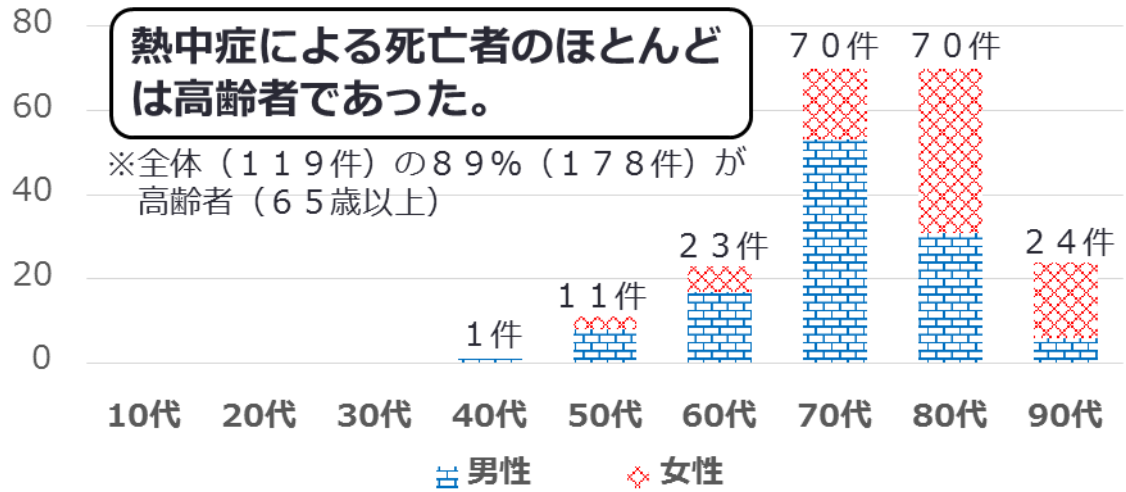
冬季の高齢者孤立死件数は、**最高気温と最低気温の気温差に関連性**が見られる。



気温データ出典：気象庁ホームページ「過去の気象データ検索」

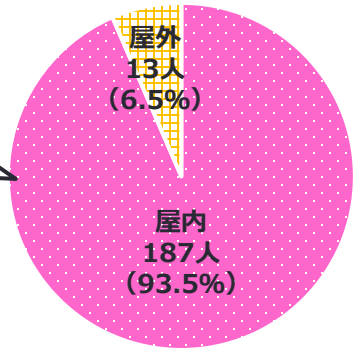
（1）ーウ　令和2年6～9月の熱中症死亡者の状況（特別区内全域、世帯構成・年齢不問）

年齢、男女別　熱中症死亡者数

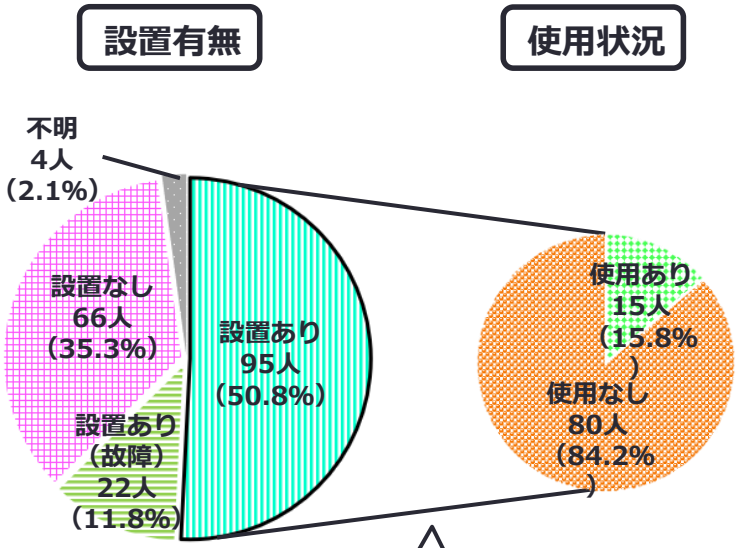


死亡場所（屋内外）の割合

熱中症による死亡のほとんどは屋内で発生している。



熱中症死亡者（屋内）のエアコン設置有無および使用状況



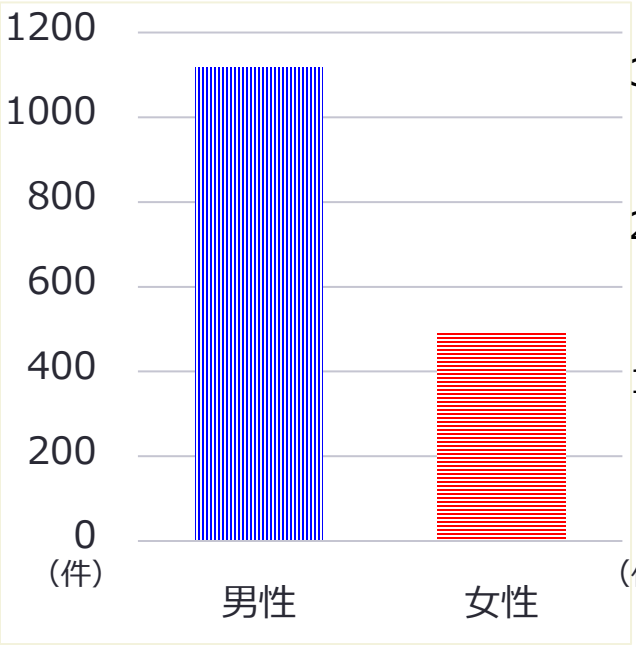
エアコンが使用できる状況であった熱中症死亡者のうち、84.2%は使用していなかった。

データ出典：東京都監察医務院ホームページ

（2） 高齢者孤立死状況(性別)

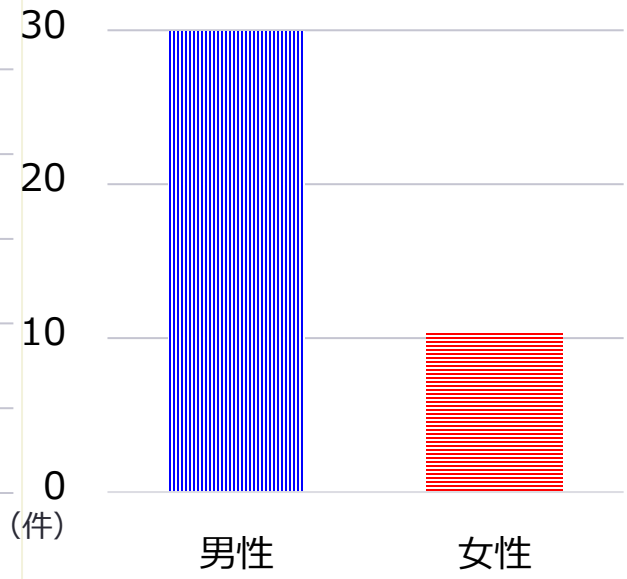
●性別ごとの高齢者孤立死件数
（平成28年～令和2年の合計）

男性1,118件　女性489件
男性の方が2.3倍多い



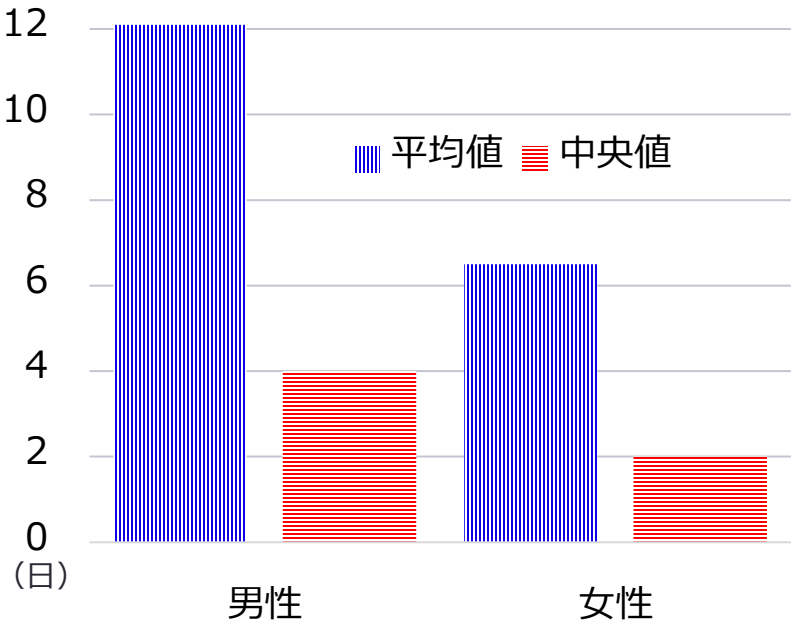
●性別ごとの高齢者1万人当たりの
高齢者孤立死件
（平成28年～令和2年の合計）

男性29.9件　女性10.4件
男性の方が2.9倍多い



●性別ごとの死後経過日数（平成28年～令和2年）

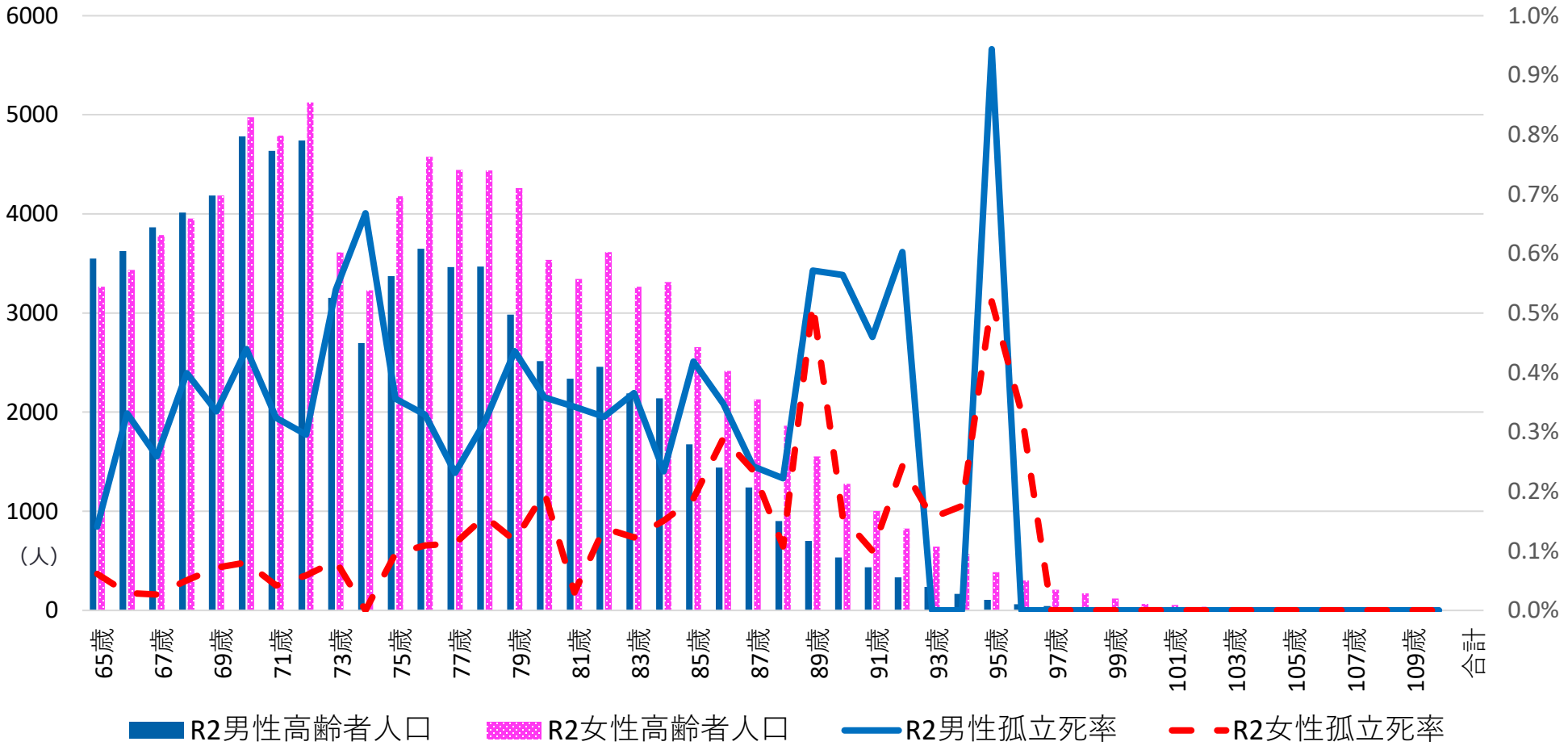
【平均値】**男性12.1日**　**女性6.5日**
【中央値】**男性4日**　　**女性2日**
※中央値とは値を昇（降）順に並べたときに中央の順位にくる値
いずれも男性の方が2倍程度の期間を要している。
また、**30日以上経過は約89%が男性**であった。



（3） 高齢者孤立死状況（死亡時年齢別）【令和2年】

男性の孤立死率は７４歳前後で最も高くなる。
女性の孤立死率は男性と反対に７４歳前後は少なく、年齢とともに増加する傾向。

※孤立死率＝孤立死件数÷高齢者人口
（いずれも男女別の数値で計算）

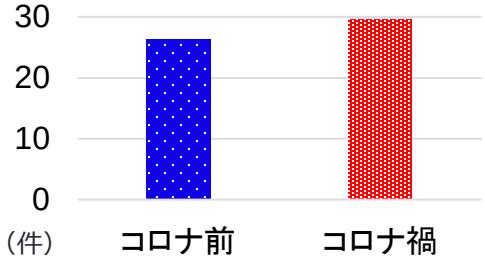


（4） コロナ前とコロナ後の高齢者孤立死状況の変化

死亡日にて、平成２８年１月～令和２年３月を**コロナ前**、令和２年４月～１２月を**コロナ禍**と定義する。

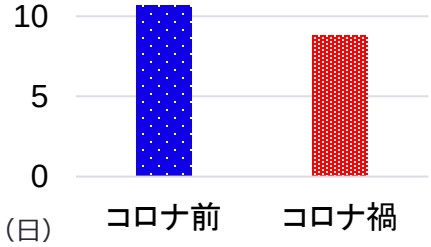
●発生件数（一か月当たりの平均）

コロナ前　26.3件
コロナ禍　29.6件
→13%増加

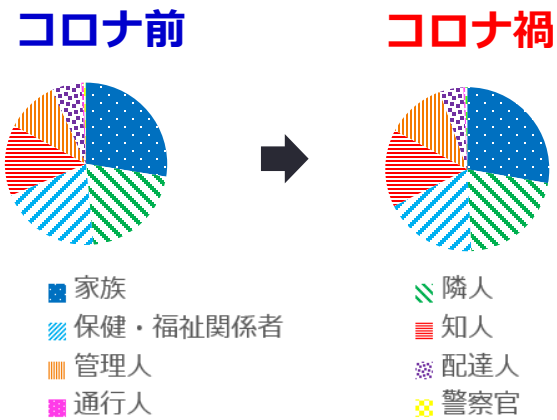


●死後経過平均日数

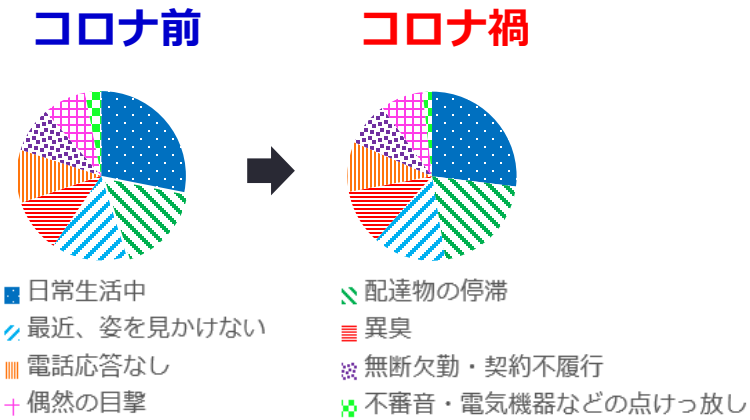
コロナ前　10.7日
コロナ禍　8.8日
→17%減少



●発見者
→特段の変化なし



●発見の経緯
→特段の変化なし



（5） 集計結果･分析結果

	集計結果	分析結果
全体	・ **高齢者孤立死件数は年々増加傾向**。足立区における**高齢者孤立死件数の増加率は、高齢者人口の増加率を**上回る。	
時期別	・ **冬季（１２月・１月）、夏季（７月・８月）は高齢者孤立死件数が増加**する傾向がある。 ・ **夏季（ ７月・８月）の高齢者孤立死件数は最高気温と関連性**が見られ、**最高気温が３５℃（猛暑日）を上回ると、高齢者孤立死件数が２.９倍**になる。 ・ **冬季（１２月・１月）の高齢者孤立死件数は最高気温と最低気温の気温差に関連性**が見られ、**気温差が１２℃を上回ると、高齢者孤立死件数が１．６倍**になる。	・ 高齢者孤立死件数が増加する夏季・冬季は、最高気温・気温差との関連性が顕著なため、**今後、区としてできる対策を検討し、周知することで件数を減少できる可能性**がある。
男女別	・ 性別ごとの高齢者１万人当たりの高齢者孤立死件数は**女性に比べ男性は２．８倍多い**。 ・ 発見までに要した平均経過日数には、**女性に比べ男性は２倍の期間を要している**。また、３０日以上経過していたケースは８９％が男性だった。 ・ **男女・年齢別の孤立死発生率は男女でピーク年齢、傾向が異なった**。男性は７４歳が最も高い。女性は７４歳前後が少なく、年齢とともに増加する傾向（令和２年）。	・ 高齢者１万人当たりの高齢者孤立死件数、発見までに要した平均経過日数は**女性に比べ、男性が大幅に上回った。**また**男女で発生しやすい年齢層がある**ことも分かったため、ピンポイントの対策により、防止効果が期待できる。
コロナ禍	・ コロナ前と比べ、**高齢者孤立死発生件数はコロナ禍で１３％増加**した。	・ コロナ禍では発生件数の増加以外は特段大きな変化はなかった。今後（令和４年度以降）も**コロナ禍における高齢者孤立死データ分析を継続**する。

（6） 孤立死に関する対策

ア　高齢者の相談窓口である**地域包括支援センター及び地域の見守りを行っている関係機関に情報提供**し、**孤立死が増加する夏季や冬季に重点的に地域の見守りを依頼**していく。

イ　孤立死の現状について、絆のあんしんネットワーク連絡会等の関係機関の会合で本分析を活用してもらうことにより、**区民への周知・啓発**を進めていく。特に**孤立死件数が増加する夏季・冬季に重点的に広報等による周知を図る**。

ウ　コロナ禍における孤立死増加の有無については、令和３年中の孤立死の状況も確認する必要があるため、**令和４年度も引き続き分析を進める**。

エ　庁内の環境政策課（エアコン購入費補助金）、建築安全課（浴室暖房設置工事費助成）などの**関係所管と情報共有を進め**、より効果的な孤立死対策について検討していく。

ご清聴ありがとうございました

誰も孤立しない地域を目指して
～足立区孤立ゼロプロジェクト～

あだち絆づくり

あだちから
Go For 90th→100th

令和４年１０月７日（金）
足立区地域のちから推進部
絆づくり担当課長　會田　康之